

在宅医療・介護多職種連携協議会 多職種連携・情報共有システム部会 ～報告～

部会の目的

在宅医療に係る多職種連携の推進及び情報共有システムの効果的な活用について検討する。(試行WG, 試行WG評価チームの発展形)

- 症例を通じた多職種連携ルールの検討
- 好事例を基にした情報共有システムの活用方法の検討

内容

第3回部会

オンライン形式
(令和8年2月16日)

- 1 報告 (1) 令和7年度個人情報保護研修会実施結果について
(2) 多職種連携・情報共有システム部会
2年間のあゆみ～取組及び成果について～

(1) 令和7年度個人情報保護研修会実施結果について

■ 研修の目的

- ・ カシワニネットの利用において、患者一人一人の個人情報を取り扱うことから、利用する各職種が、個人情報保護に対する意識と知識を高めること。
- ・ 一人でも多くの利用者に受講してもらい、研修を契機に適切な個人情報の取扱いを意識し、実践してもらうこと。

■ 内容

	内容
期間	令和7年11月5日（水）～26日（水）
受講対象事業所	479事業所
受講対象者	2,092名 （内訳：カシワニネット担当者 461名 一般受講者 1,631名 ）
受講形式	研修システムを利用したeラーニング
周知方法	案内文の郵送及びカシワニネット「柏市からの重要連絡」での告知

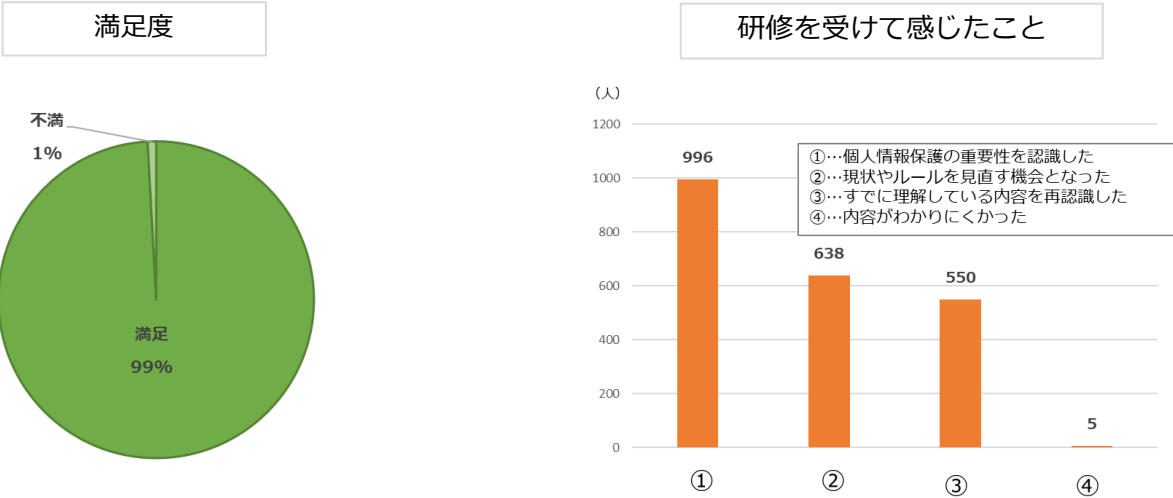
■ 実施結果

- ・ 事業所の受講率は昨年度より **2ポイント増加**し、**7割を超えた**。
- ・ 受講修了者は全体で昨年度より **3ポイント増加**し、全体およびカシワニネット担当者、一般受講者の受講率も増加。

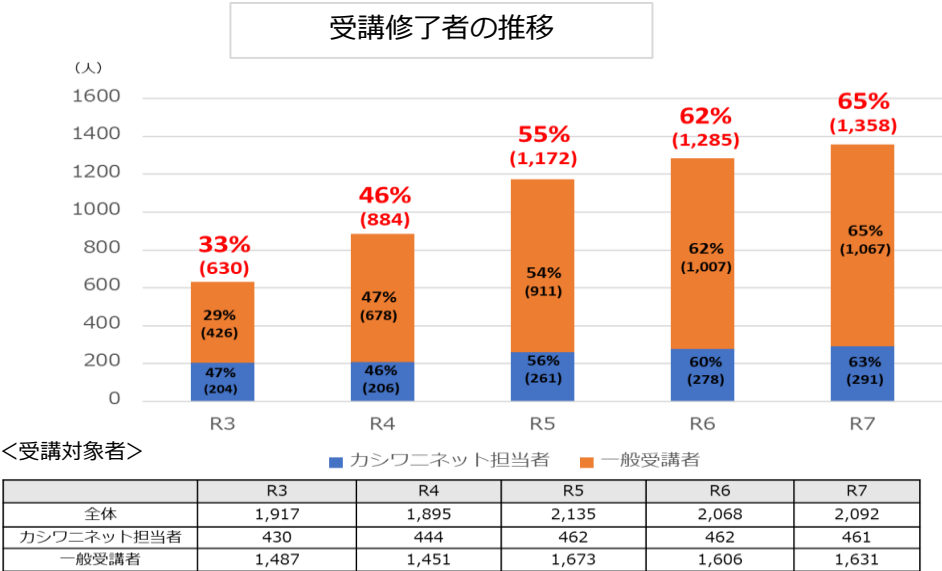
	令和7年度	令和6年度
受講修了事業所数	<u>334事業所（約70%）</u> N=479	331事業所（約68%）
全員受講の事業所数	238事業所（約71%） N=334	245事業所（約74%）
受講修了者数（受講率）	<u>1,358名（約65%）</u> N=2,092	1,285名（約62%）
カシワニネット担当者	291名（約63%） N=461	278名（約60%）
一般受講者	1,067名（約65%） N=1,631	1,007名（約62%）
アンケート回答者数	<u>1,278名（約94%）</u> N=1,358	916名（約71%）

■ 実施結果・アンケート結果より

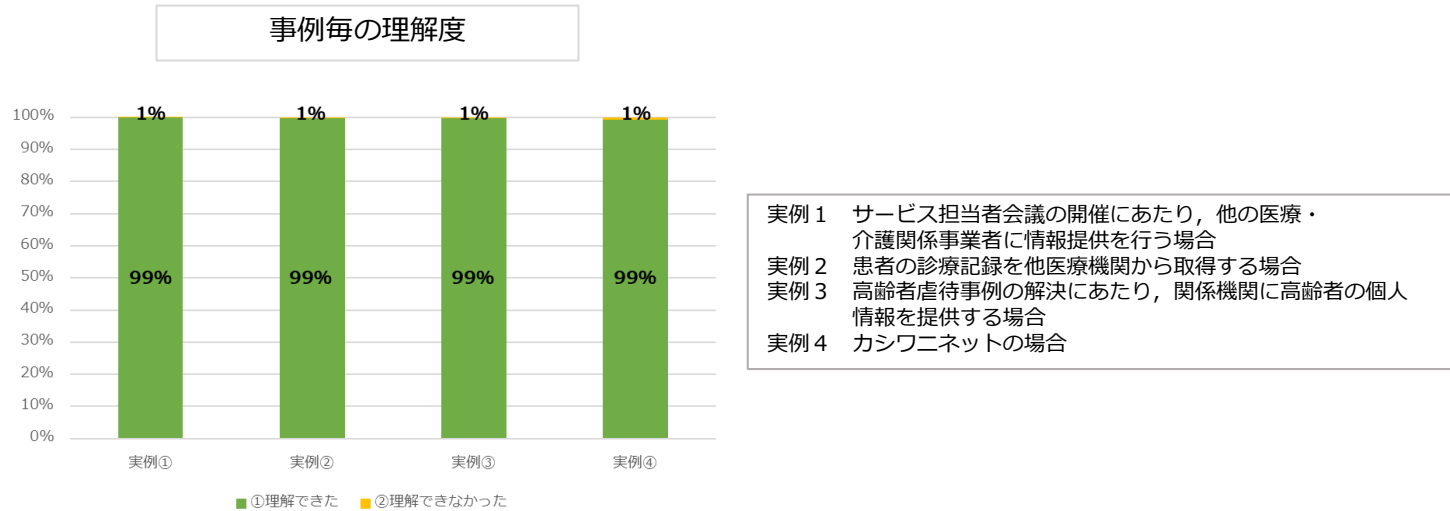
① 研修を実施することで“知識の再確認・意識向上”に大きな効果があった。



② 研修の定着・参加率向上が進んでいるのではないかと考察する。



③ 内容の分かりやすさ・学習効果は非常に高かった。



④ プラスワン動画は、**カシワニネットの活用事例をテーマにした年度で閲覧者が多数**であった。

プラスワン動画 実績

年度	タイトル	内容	視聴人数
R4	お部屋について	・カシワニネットとは ・お部屋の開設方法 ・カシワニネットイメージ画面	448名（約51%）
R5	お部屋で情報共有	・カシワニネットとは ・ 4場面ごとの事例	928名（約79%）
R6	今、あらためて、カシワニネットの基礎知識	・カシワニネットの歴史 ・お部屋のルール ・カシワニネットイメージ画面	722名（約56%）
R7	お部屋を活用してみよう	・ お部屋の活用事例	1,085名（約80%）

■ 総括

- ・ **毎年の実施** が受講者にとって、**個人情報保護の知識や重要性を再確認できる場**となり、研修の必要性や意義を感じている方が多くなっている。
- ・ **受講が定着化してきている事業所が増え**、研修を実施することが、医療・介護関係者にとって**日頃の業務等で個人情報を取り扱う際に役立ち、意識向上の機会**となっている。
- ・ **カシワニネットの活用事例**を本研修に用いることで、**幅広く周知できる機会**となっている。



- **次年度も個人情報保護研修をeラーニングで実施**
- **カシワニネットの効果的な活用に関する動画も継続**

① 2年間の取り組みの振り返り

<きっかけ>

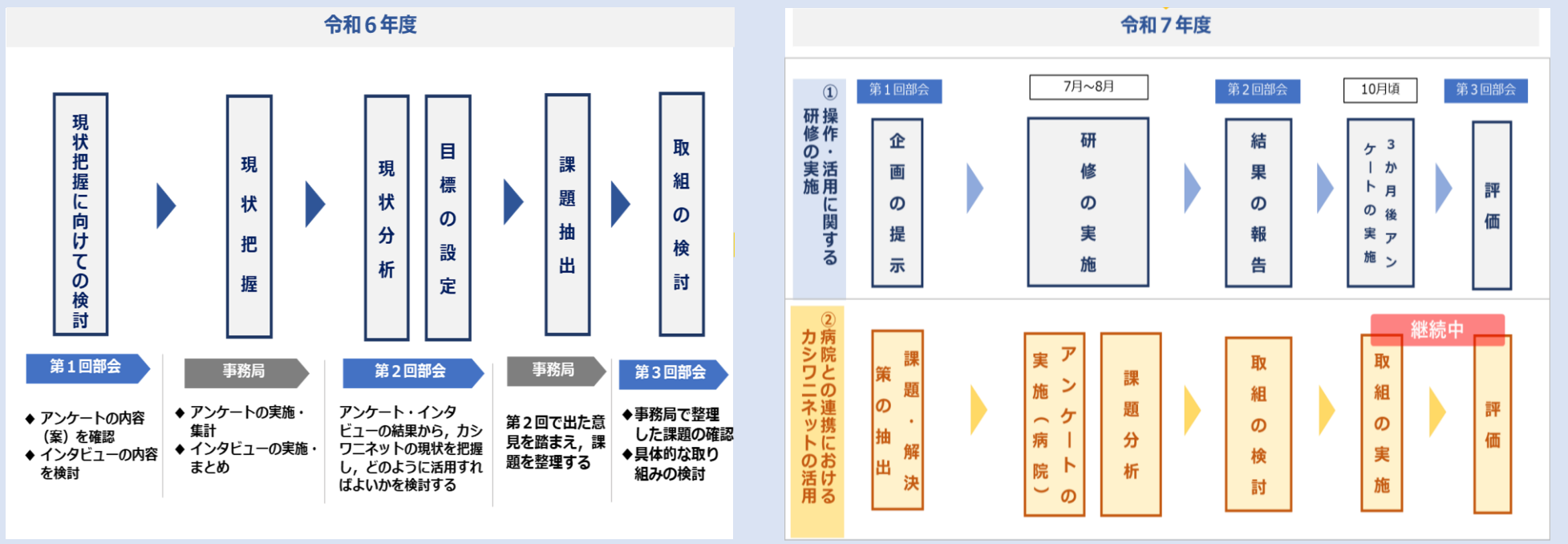
“多職種連携においてスムーズな情報共有を行う一つの手段”としてカシワニネットの活用を広めることを促進

➡ カシワニネットの登録者は **2000人** を越えているが、活用している人は ほとんど同じ?



令和6～7年度の部会のテーマ

多職種連携においてスムーズな情報共有を行うために、カシワニネットの効果的な活用に関する取り組みを検討し実行する



② カシワニネット操作・活用研修／3か月後アンケート

■概要

期 間：令和7年11月6日（木）～12月1日（月）

対 象 者：80名（カシワニネットで修了報告を行った方）

回答者数：50名（約63%）

（参考）研修実施概要

■目的

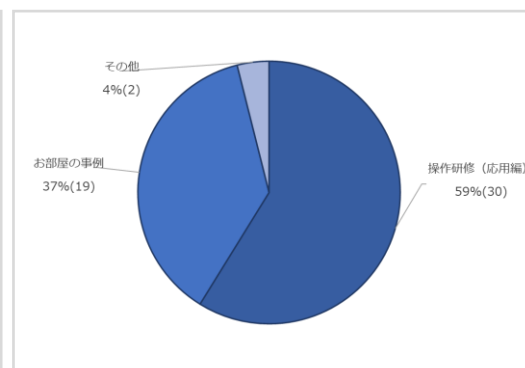
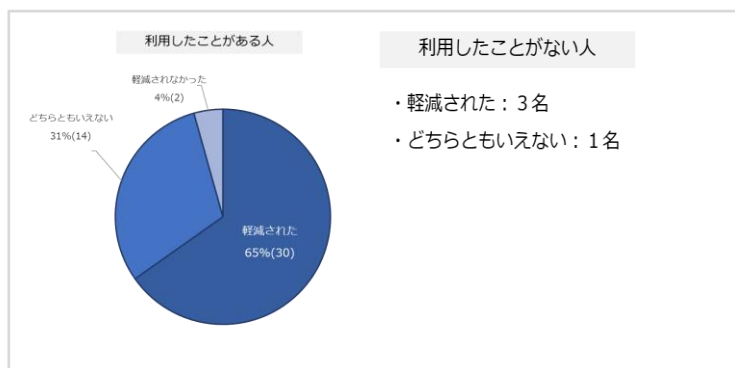
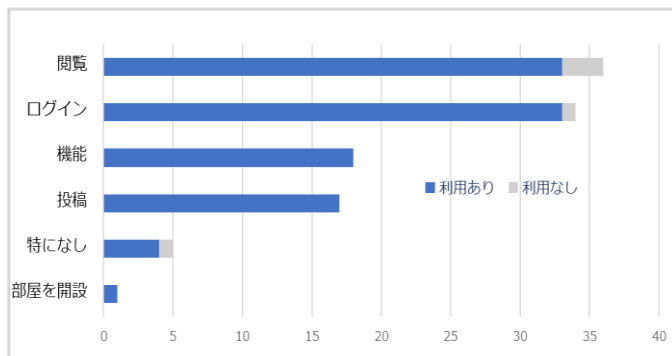
- ・カシワニネットの理解を深める
- ・システム操作への負担感や苦手意識を軽減する
- ・カシワニネットの活用方法を学び、日頃の支援の中で活用できるようにする

■実施方法及び開催日

- ① eラーニング：R7.7.18（金）～31（木）
- ② 参集研修：R7.7.22（火）

■アンケート結果

- ・カシワニネットへのログインを試みた方，部屋の開設につながった方がいた。
- ・負担感や苦手意識を克服する機会となった。
- ・今後について，操作（応用編）や部屋の好事例を希望する方が多かった。



研修の実施は、カシワニネットの活用促進に効果的だとわかった。
引き続き、カシワニネットの効果的な活用促進について啓発を行う。

③取り組みの成果

■ 開設・稼働件数

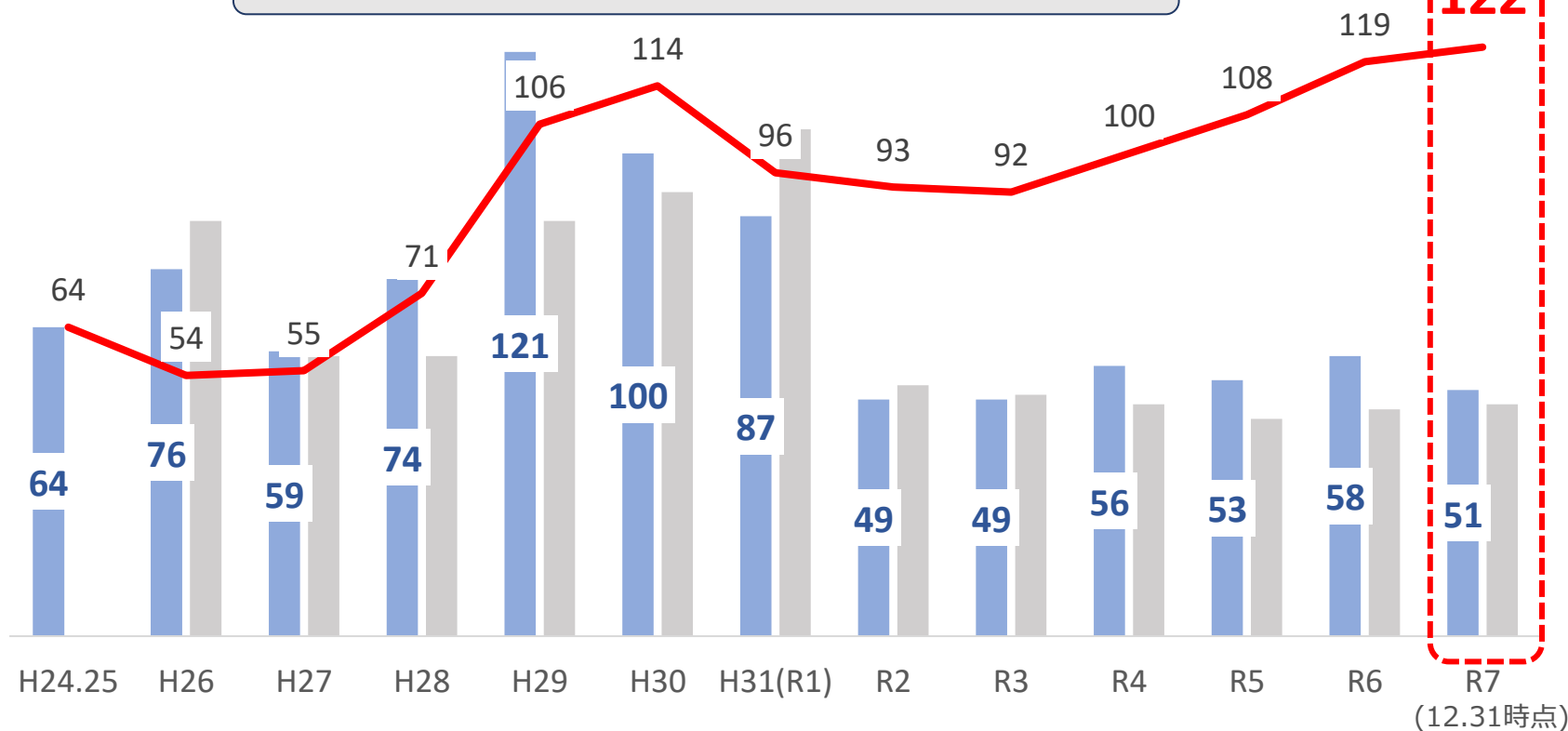
- ・ これまでに開設した部屋は **897** 件。
- ・ R7年度は12月末時点で稼働件数が**122** 件。
R8.2.6時点の新規開設数は**65**件、稼働件数は**133** 件（過去最多）。

【速報値（R8.2.6時点）】

新規開設：**65** 件

稼働件数：**133** 件

部屋の開設累計（H24～R7.12.31）：897件



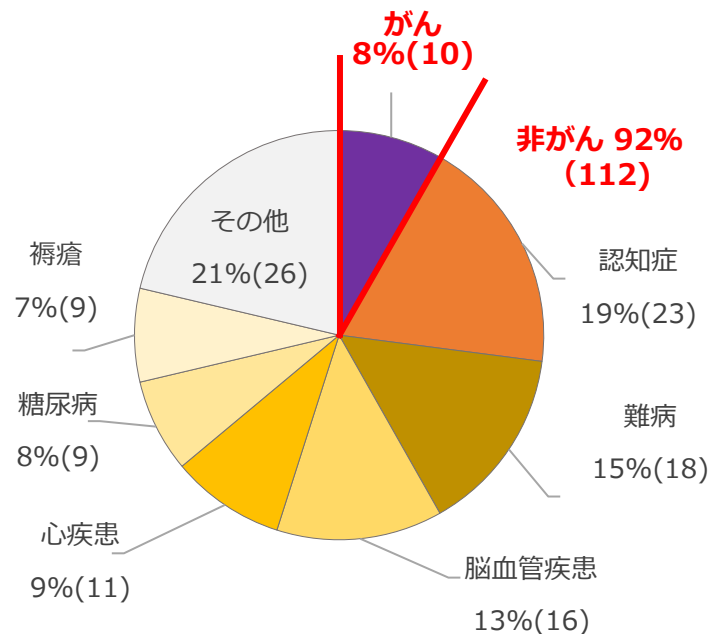
■ R7.12.31時点／稼働部屋122件の内訳

- ・稼働中の部屋 ⇒ **認知症，難病，脳血管疾患**が多い。
- ・**非がん患者**が多い ⇒ 稼働期間が長い。

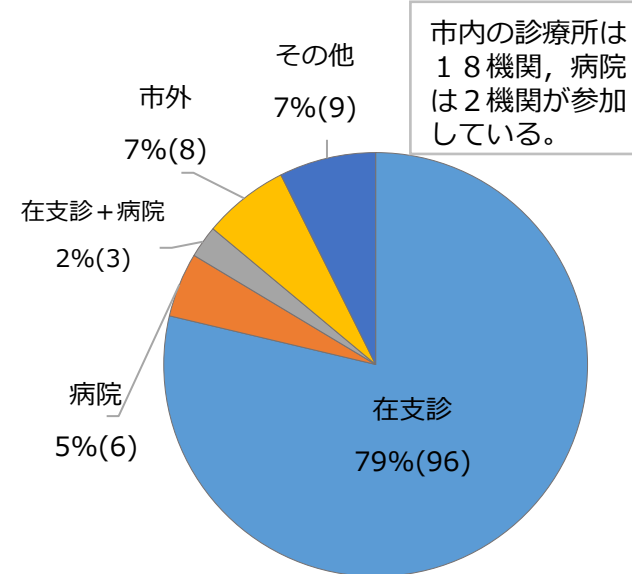
開設年

開設年	件数
2014年	1
2015年	1
2016年	0
2017年	2
2018年	3
2019年	2
2020年	6
2021年	6
2022年	15
2023年	14
2024年	33
2025年（～12.31）	39

疾患分類



参加医療機関



柏モデル開始当初

- ・医療介護の連携で，**がん末期の患者の利用が主**だった。
- ・部屋の開設は，**医師を中心**に行われていた。
- ・部屋の同意は，**多職種と市が患者（利用者）の自宅に伺い，書類を受領**していた。

■現状分析

- ・慢性疾患（難病や認知症など）の利用が増えている。
- ・部屋の開設は、ケアマネジャーからの申出が多くなった。
 - ➡ 本人・家族および支援者の意見を集約し、調整する役割を担うケアマネジャーからの申出が多いと考える。
- ・部屋の同意は、ケアマネジャーの代理取得が多くなった。
 - ➡ 本人・家族にケアマネジャーが直接説明することで、情報共有することの必要性について理解を得やすい。
 - ➡ チームアプローチをする中で、円滑な多職種連携のために、カシワニネットを活用したいとの申出が増えている。
- ・お部屋の開設にあたって、サービス担当者会議等で「カシワニネットが必要」と合意され、依頼されることが多くなった。
 - ➡ お部屋の有効活用につながっており、招待や登録もスムーズになってきた。
- ・生活形態の変化により、独居高齢者が増えた。
 - ➡ 認知症の独居高齢者のお部屋が増え、活用されている現状。
 - ➡ 日々のお金のやりとりや、問題行動の共有など、権利擁護の観点から、日々起こる出来事や変化を一元的に共有する必要性。



■まとめ

- 面で支えるチームアプローチでは、情報共有が大切
- 本人や家族の訴えや、情報を、支援者が同じレベルで共有できることが必要
- カシワニネットは、日常のケアの中で、連絡を取り合う負担の軽減や統一した理解につながるツール
- 難病支援においては、緊急性はないが、重要な情報を適切に共有していくことが必要

④ 取り組みを振り返って（これからのICT部会に期待すること・感想など）

職種	内容
医師	・ 柏モデル開始当初のときとは、環境も状況も全く違う。施設の状況なども変わってきている。 ・ 今までの取り組みが、少しずつ、成果としてでてきている。 ・ 一人一人が、カシワニネットを使えるようになったなど、少しずつ増えていくことが大事である。 ・ 他のツールもでてきている中で、どういう風にカシワニネットの活用を広げていくかを考えていく必要がある。 ・ 柏市全体でカシワニネットを活用していくことは良いことであり、とても良い使い方である。 （部会員の意見を聞き）地域包括ケアシステムをつくるのに高齢者だけで完結するのではなく、小児、周産期、全世代にわたって、地域全体でどのようにみていくか、そのツールとしても、このシステムを使っていくこともよいと考えている。 ・ 高齢者だけの横のつながりだけでおわらない、介護者や若い世代の問題などにも、最終的にはつながっていけるツールになればよいと考える。 ・ 柏市としてみんながつかえるようにという流れは、とても重要である。 ・ 継続的にカシワニネットが活用されていることはよいことである。 ・ ICTを活用した連携が推進されている状況。今後、医師だけではなく、他の職種にも連携に関する加算が新設されていくと思うので、情報共有ツールを使った連携を行っていく必要がある。 ・ 情報共有ツールは多数ある。その中において、柏市としてカシワニネットを活用することを、引き続き、多職種で推進していくことが必要なのではないかと考える。
歯科医師	・ 歯科としてもICTを活用した連携は重要である。 ・ 歯科医師会にも発信し、カシワニネットの活用促進を行っていきたい。
薬剤師	・ 報告を聞くまでは、あまりカシワニネットの活用について進んでいないと思ったが、振り返ると、色々な変化があったことがわかった。 ・ 病院と連携するためにカシワニネットが必要など、旗印があれば、多職種が一丸となってカシワニネットを使うようになるのではないかなと思う。
訪問看護師	・ アンケート結果で、病院の情報共有ツールの利用が少ないことがわかった。病院にカシワニネットを活用していただければ、多職種連携が円滑に進むのではないかなと思う。 ・ 個人情報保護研修会は、事業所の年間研修計画で位置付けており、毎年受講している。優良事業所認定証（賞状）が励みになり、毎年受講したいと思える。 ・ カシワニネットの使用頻度について、スタッフの中ではほとんど使っていなく、苦手意識があった。しかし、がん末期の患者について、連日、訪問していた時に、毎日カシワニネットで共有するよう指示があったため、スタッフ全員がカシワニネットに共有していた。最初は負担であったが、使い方に慣れるきっかけになった。今では、何かというと、カシワニネットという言葉が、事業所内で出るようになった。このようなシチュエーションがあれば、より使い勝手がよくなり、浸透していくきっかけになるのではないかなと思った。

職種	内容
介護支援専門員	・他のツールも出てくる中、部屋の稼働数が過去最多であること、徐々に増えていることを受け、カシワニネットの良いところが少しずつ広まって、よいのではないかなと思う。 ・カシワニネットの利用方法の拡大として、例えば、違う使い方の提案など、引き続き、部会などで検討していければ良いと思う。 ・ケアマネジャーの立場として、どのツールでもよいので、報告書などをFAXではなく、オンラインで提出いただけるとありがたいと思う。 ・多職種連携だけでカシワニネットを使うのは良いが、（別の会議で話しているが）災害のときなどで、カシワニネットを通し、多職種とつながれるのもよいと思う。 ・日頃からカシワニネットに馴染むのは大切であるため、多職種連携の部屋だけでなく、市から情報を発信する部屋なども、活発的に稼働させることができれば、カシワニネットへログインする方も増えるのではないかなと考える。
作業療法士	・以前はがん患者が多かったが、今は、経過が長い方の活用が多いことがわかった。 ・福祉用具や環境の変化について、専門職として他の職種がわかりやすいように、カシワニネットで表現していかないと行けないと思った。 ・カシワニネットを使い始めた方が「使ってよかった」と思っていただけのように、カシワニネットで情報共有する内容などを投稿していこうと改めて思った。
管理栄養士	・今回の部会で2年間を振り返ることができ、よかった。グループワークやアンケートの結果をまとめてもらい、多職種の要望や部会の方向性について、よく理解できた。
介護職	・ICTの活用が進む中で、ICTが得意な方、不得意な方、事業所自体がそのようなことがある。 ・強制的にICTの活用を促すことも大事だと思う。 →自身の事業所では、最初はICTを使いこなせる人、使いこなせない人で分かれていたが、利用していく内に徐々に慣れ、全体的に浸透してきている。 ・例えば、介護保険の制度では、ケアプランデータ連携システムの浸透率が低いことに対し、事業所加算の要件になってくる。ICTを進めるには、半場強制的な決断も必要ではないかなと考える。
保健師（地域包括支援センター）	・包括では、多職種連携以外にも、カナミックを使っており、頻繁に稼働している。 →認知症の初期集中支援チームで情報共有 →重層的支援体制整備事業で、一世帯の中で高齢者だけではなく、こども、障害者、支援の関係者、学校など、色々な困難を抱えている世帯について情報共有 →フレイル予防応援プロジェクトで、介護認定を受ける前の方（専門職の助言や指導があればよいという方）について、栄養士、リハ、歯科衛生士などが、家に訪問し指導していることを情報共有 ・医療・介護連携の横のつながりのイメージで普及されていると思うが、上記など、一つの事例で色々な分野の方々が関わってより深くカナミックを使っていることも、今後、何かのヒントになるのではないかなと思った。

■ 今後の予定

R 8 年度第 1 回部会（5月下旬～6月初旬頃に実施予定）